

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 **第6回**

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第5弾」が【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



労働組合として天下に恥ずべき1.23見解

労組内紛が激化する中で03年1月23日、JR東労組中央執行委員会が発表した「8人の中央指導部の辞任に対する見解」、いわゆる「03.1.23中央執行委員会見解」は、まともな普通の労働組合ならば、恥ずかしくてとても表には出せない文書である。

《彼らは松崎前顧問からの「自立」を強調しているようだが、...（中略）...将来にわたって盤石なJR東労組を松崎前顧問とともにつくること、これがJR東労組の基本的な組織戦略である》
《我々は松崎前顧問を組織外の人だとは思っていない。JR東労組の育ての親であり、紛れもなくJR東労組にとっての重鎮である。この事実は揺らぐものではない。今でも労働運動の第一線で闘っていること、卓越した洞察力と的確な判断、そして陰に陽に実践的なアドバイスをしてくれる松崎前顧問は、「余人をもって代え難い」存在である。この評価を否定し「ぶら下がり」と言うなら、それは明らかに見解の相違であって、そのように思っている者とは闘うしかないことを明らかにしておく》

この主張で明らかのように、JR東労組本部指導部は、「松崎明・命」「何があろうと、どこまでも着いて行きます下駄の雪」で、組織目的を“松崎擁護”で徹底している。そして彼らのこの“松崎氏への揺るぎない「評価」”（私の目には「盲従」であり「狂信」としか映らないが）を否定する者とは「断固闘う」と内外に宣言して恥じないのである。

元JR総連委員長の福原福太郎氏は『記録「国鉄改革前後」- 労組役員の備忘録から -』を出版した。そのまえがきに、同氏の見解が次のように記述されている。【...深刻なのは、この日本労働運動のなかの良心的労働組合であるJR東労組で8人に及ぶ中央本部役員が昨年10月末辞任したことをめぐる組織問題である。警察は、8人の辞任というJR東労組内の不協和音をみすかして弾圧したことが予測できる。さりとして、8人が警察の手先などではありえない。このことを混同することは、それこそJR東労組の弱体化をねらう者の思惑にはまってしまうことになる。問題は8人がなにゆえに辞任したのかということである。1月に本部が出した「見解（『8人の中央指導部の辞任に対する見解』）」によると本部側と8人の言い分はくいちがっているように思える。...】

ここに見られる「8人が警察の手先などではありえない」という福原見解は、松崎氏を頂点とする本部派のそれとは真っ向から対立するものだ。このため、福原氏は松崎・本部派から組織破壊者、「嶋田氏ら8人組支持派」の黒幕的存在と位置付けられてしまった。私は、福原氏の見解はまったく正しいと思っている。そして、JR東労組本部派が長期紛争の拠り所として、金科玉条的に扱っている「03.1.23東労組中央執行委員会見解」の誤りを認め、謝罪、撤回などの妥当な措置を取らない限り、02年初頭から続いているJR東労組内部紛争は絶対に収束しないと判断している。「03.1.23東労組中央執行委員会見解」に呪縛され、今や、「松崎チルドレン」と呼ばれ揶揄されている東労組革マル派執行部は、前途にどんな展望をもっているのだろうか。私には、彼らの将来展望はもはや“ゼロ%”としか思えないのだが...

【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”(高木書房)P.84~P.90】